

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホーム えぞりす		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄りの芽室駅へ450Mと近く電車も通り、パン屋・消防署・病院と近くにあり、ホーム内の窓からも良く見えます。  
建物の1Fは町が運営する介護予防支援事業と同事業所のデイサービスがあり、催し物などもあり、お声が掛かり遊びに行き、歌や踊り、マジックショーなど行われ、皆さん楽しんでます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani%2Fue&amp;JigvosyoCd=0194700456-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani%2Fue&amp;JigvosyoCd=0194700456-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年1月27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境と機能  
JR芽室駅前通りに程近く、買い物などの外出の利便さがある。ゆったりとした居間や居室、浴室・トイレ等の配置に配慮された機能性豊かなホームである。  
2)職員の介護姿勢  
職員は明るく、利用者個々の要望や意向を聞き取り、全体で共有することでより良い個別的支援となるよう努めている。  
3)利用者本位の生活  
入居者が「自宅のように」安心して過ごせるよう、見守りの姿勢で利用者本位の介護に努めている。  
4)運営推進会議  
会議は定例に開催し、事故報告・ヒヤリハットや運営状況を開示して、参加者からの意見聴取に努め、運営に反映している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその方らしく生活が出来よう様理念を作り、目に付く所に掲示し職員全員で実践につなげる様、常に取り組んでいます。	「住み慣れた地域の中で、共に助け合いながらその人らしさを尊重し共に助け合いながら安心して生活出来る、暖かい環境作りを目指し、明るく、笑顔のたえない暮らしを大切にしていきます」をホーム理念とし、職員間で共有することで、質の高いサービスの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加させて頂き地域の皆さんと交流が持てる様努め、近くに住んでいる知人の方が気軽に面会に来られる様配慮行っている。	管理者を中心に、地域の行事に参加・協力している。また、気軽に立ち寄ることの出来る雰囲気作りで、地域交流に積極的に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方との交流の機会は少なく、今後の課題としていきたいと、思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、入居者状況や取り組み等を報告し、家族からの意見等聞き、職員へ報告しサービス向上に活かしています。	行政・家族代表・地域住民代表等が参加し、年6回開催している。会議では、運営状況、事故・ヒヤリハットなどの問題点を明らかにし、参加者からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中々お会いする機会がないが運営推進会議以外にも電話等で連絡を取り合い協力関係を築く様心がけています。	メモロカフェへの参加や町への状況報告、推進会議報告を通じて、地域高齢者や事業所の状況について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が常に目を通せるよう資料を綴っており、日々の業務・会議でも禁止行為について取り上げ振り返りを行い、身体拘束ゼロケアに取り組んでいます。	職員は、内外の研修会等に参加し、伝達研修を通じて、全職員が身体拘束のないケアを学んでいる。目配り、気配りに配慮し、日常生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各勤務者は常に利用者様の身体・精神的変化を見逃ごす事のない様確認を行い、何か変化があった場合は職員全員で原因を追究し、虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいないが、今後も研修会等に積極的に参加をし知識を深めいつでも活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には契約書・重要事項説明書を一部ずつお渡しし十分に納得・理解をして頂けるまで説明を行っている。また退居時も同様に不安を取り除く配慮をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や訴えにじっくりと耳を傾け、ご家族には順番に運営推進会議へ参加して頂き、ご意見ご要望があった場合にはそれらを運営に反映する様、努めています。	利用者については生活を支える日常から、思いや希望を聞き取り、家族については、来訪時に意見、要望を取り込むように努めている。	意見や要望について、家族会の開催等での集約を大いに評価できるが、来所を基本とした聞き取り以外に、全家族を対象としたサービス満足度調査等、具体的な方法を検討し、実施されるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き職員の意見や提案を聞く機会を設け反映出来る様努めている。また、普段から意見交換をし易い雰囲気作りに努めています。	各ユニットごとや全体会議、勉強会の場で、職員と意見交換、提案を受けている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、話しやすい雰囲気配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績等を把握する様心がけ、負担が掛からない様勤務体制等工夫をし常に向上心を持って働ける環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の調整を行い、内外の研修等に積極的に参加出来る様努めている。参加後には報告書の提出・会議等で意見を述べて頂き、職員の知識・意識の向上を心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後同業者の研修会に参加をしたり、同事業所内の施設やグループホームの行事に参加。現在、メモロカフェに参加し、地域の事業者と毎月交代で交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の生活の場でアセスメントする様努め現在またはこれからの生活の不安・要望等をしっかりと受け止め支援する様心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付、契約時にご家族の不安・要望をしっかりと聞きしご協力を頂きながら支援を行う様努め、入居後も面会時やお電話等で情報交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らしを把握する為積極的に対話し対応に努め、他サービス利用の必要がある場合は関係機関より情報を収集しご家族と共に検討行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその方のできる作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図りより密な関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りを心掛け面会時にはご本人を交え積極的に会話をしています。御家族の思いを把握し共に利用者を支えていく関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも身近な方が気軽に訪問しやすい環境作りを心掛け、また利用者様より希望があった場合はご家族のご協力を頂きながら出来る限り外出の機会を作る様配慮しています。	利用者・家族より馴染みの人・場所を聞き、昔ながらの関係が維持出来るよう支援している。定期的な家族・近隣住民等の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と皆さん居間に集まり、楽しくお話をしたりレクリエーション等で交流を図っている。何か不都合があった場合は職員が間に入り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先・施設等へ訪問する様心掛け出来る限り相談や支援をさせて頂いています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の希望や意向を汲み取る様努力し、安心して生活が出来る様努めています。	日頃の利用者との会話等から、本人の希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は、生活暦や家族からの情報等により、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様からお話を伺い日々の支援に生かせる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて自身で出来る事は積極的に行って頂き、変化があれば生活記録・連絡帳を通じ職員全体が周知・把握出来る様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族のご要望を基にケース会議で各担当者・関係者で意見交換を行い、その都度見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	介護計画を中心に据えたケアの実践に取り組んでおり、日々、介護目標達成の進捗状態を介護日誌に記載し、把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌・生活記録に日々の状況を記録し、職員間では連絡ノートを用い常に新しい情報を共有出来る様にし実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じたご本人・ご家族様のニーズに対応出来る様必要時には本体の老建施設の関係者へ相談をし意見を頂いています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め皆様が安心して豊かな生活を楽しめる様支援させて頂きます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ホーム主治医に往診して頂き継続的な医療を提供している。専門医受診の場合は主治医に紹介状を書いて頂き対応しています。	かかりつけ医は利用者・家族の意向によるが、専門医以外は月2回の往診の関係で協力医になる場合が多くあり、医療的な面でも安心できる体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム担当看護師に気になる点・変化があった場合にはすぐに相談をし利用者様の健康管理・適切な対応が出来る様努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその方の日常生活・注意する点等を記入した資料をお渡し、入院中もご家族・病院関係者と連絡を密に取り退院後も安心した生活出来る様支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書を用いご本人・ご家族のご希望をお伺いし、必要時には主治医・ご家族・関係者で早い段階から十分に話し合いをし、方向性を共有する様努めています。	重度化した場合の対応に係る指針を文書化し、早期から家族や、かかりつけ医と連携し、話し合いを行っている。本人や家族の希望を尊重し、最善を尽くせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等に積極的に参加をする様心掛け、また日々自己学習にて実践力を身につけ急変や事故対応に早急に対処出来るよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様参加の避難訓練を年に2回は実施しています。町内会の方にも参加をして頂き協力体制を築く努力をしています。また今後、内容の濃い訓練も行いたいと思います。	避難訓練は昼夜想定で年2回実施。入居者も参加し、避難方法等の確認、協力体制作りにも努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様一人一人の人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現をされない方もいらっしゃいますがご本人の思いを汲み取る努力をし出来る限り自己決定をして頂くよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先する事無く一人ひとりの表情や様子を観察しながらその方のペースを大切にしながら希望にそって支援をする様努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用しその方の希望される身だしなみやおしゃれ出来る様、支援しています。その方の好みの柄・色等を把握し洋服選びの参考にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせ食事準備・片付け等を一緒に行っている。献立も利用者様のご希望を伺い作成する様に心掛けています。	利用者の希望を活かした献立を工夫して提供している。楽しく食べることを健康の基本と捉え、外食を計画したり、準備から後片付けまで利用者に出る範囲で手伝ってもらい、日々の楽しみとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量・栄養バランス・水分摂取量が確保出来るよう支援しています。年2回栄養士に、メニューを見て頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援しておりその方の力に応じ職員が援助行っている。また、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立支援を行っている。また尿意がうすれてきており意思表示が困難な方には時間ごとに声掛けを行いトイレ誘導を行っています。	利用者のサインを見極め、タイミングよくトイレへの誘導を行っている。出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用い排便チェックを行い予防として野菜中心の献立作りおやつ内容・水分量にも気を配りラジオ体操等適度な運動もして頂く様支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況により時間帯を決めている方もいらっしゃいますが、ご本人の意向・体調・希望等を考慮し、気持ち良く入浴をして頂ける様支援している。	週2回以上を目標に、入居者個々の状況に合わせて、希望に応じて無理なく自然に入浴出来るよう配慮、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせて休息をして頂いている。また日中適度な運動やレクリエーションに参加して頂き、夜間良眠が出来る様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬について理解・把握をする様努めている。変更があった場合は直ぐに伝達し症状の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節・天候が良ければ散歩や行事を企画し外出をして頂いている。また日々その方の好む作業や遊びを提供し楽しみごとのある生活を工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によるが散歩をしたりドライブがてらアイスを食べに行ったり花見や紅葉見学・地域のイベント・外食へも出掛けています。ご家族とも気軽に外出をして頂いています。	買い物や、散歩、季節を感じるドライブといった外出機会を多く持つよう努めている。また、個々の利用者の希望に沿って、日用品の買い物、用足し等を職員同行で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いている。購入したい物がある場合は職員が代行したり一緒に買い物へ出掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はなかなかありませんが、「電話して～」と言われる方が居り、気兼ねなく掛けたり、掛かって来たりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光の調節をしたり、生活の場が不快にならない様十分に配慮し家庭的で落ち着いた空間作りに努めている。また利用者様と季節ごとの制作物を作成し展示している。廊下には外出・行事等の写真を掲示し入居者様・ご家族に楽しんで頂いています。	家庭的な雰囲気大切に、皆で作った季節感のある飾り付けなどにより、心安らぐ空間となっている。快適な温、湿度調整に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされる事が多く自然と居場所も決まっている様子。皆さんでお話をしたり居室で過ごされたりと個々にご自分のペースで過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお持ち頂く様お話ししている。利用者様一人ひとりが使用し易い様それぞれ物の配置も違い、ご本人・ご家族と相談をしながら居心地良く過せる様工夫をしている。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことで、環境変化によるストレスが軽減出来るよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室の場所が分りやすい様に札を付け目につきやすい高さや位置にも工夫をしている。車イスの方にも手すりを活用し自立支援行っている。		